

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー (1F)

「自然災害と観光復興」
(2018年4月～6月)

観光地にとって、いつ起こるかわからない自然災害への対応は、喫緊の課題です。観光地の取り組みを支えるべく、当財団では、自然災害からの観光復興に関する研究を実施しており、その研究成果の一部を紹介しています。



ガーデンラウンジ (1F)

「旅の図書館オススメの一冊」
(入替展示中)

「一度は読みたい
観光研究書&実務書100冊」
(継続展示中)

「旅心を誘う、
旅の本のレジェンド30選」
(継続展示中)



展示ウォール (B1F)

「これからの地域交通と観光」
(2018年4月～6月)

機関誌「観光文化237号」(4/13発行)のテーマは地域交通です。観光やまちづくりに大きな役割を果たす地域交通の課題や可能性をはじめ、具体的な取り組み事例などを紹介している関連図書を紹介しています。



当財団専門委員が選んだ
「わたしの一冊」
(継続展示中)

機関誌「観光文化」でリレー紹介いただいている当財団専門委員「わたしの一冊」も12冊になりました。



古書ギャラリー (1F)

日本人と温泉
～保護と活用・療養と観光～
(2018年4月～6月)

日本で最初の温泉統計書といわれる「日本温泉誌」(内務省)や、温泉地への旅行案内書である「温泉案内」(鉄道省)などの展示を通して、温泉地の発展に寄与した国内外の研究者や温泉行政の変遷、利用形態の変化などを紹介しています。



Information

「観光地優秀パンフレット」 特別展示 (1F)

一般財団法人地域活性化センターのご協力を得て、同センター主催の「第5回ふるさとパンフレット大賞(2017年度)～“旅に出たくなる、思わず手にとる”パンフレット～」の受賞パンフレットを展示しています。

大賞を受賞した京都府和束町をはじめ、いずれも個性豊かでセンスにあふれたパンフレットぞろいです。ご来館の際はぜひお手に取ってご覧ください。



「ツーリスト」復刻版 第I期大正篇全6巻が 発刊されました

当館が総監修をつとめる「ツーリスト」復刻版の第2回配本となる第7巻～第12巻/大正7年～大正9年が2018年1月に発刊されました。

蔵書点検に伴う 臨時休館について (5/28～6/1)

蔵書点検のため5月28日(月)～6月1日(金)を臨時休館とさせていただきます。

ご利用の皆様には、大変ご不便・ご迷惑をおかけしますが、どうかご理解を賜りますようお願い申し上げます。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 3

2018年4月号



旅の図書館 News Letter
旅の図書館は今年40周年を迎えます

「テーマのある旅を応援する図書館」から「観光の研究や実務に役立つ図書館」へ。新たなコンセプトのもと移転・リニューアル開館して1年半が経過しました。

そして本年は、1978(昭和53)年10月、東京駅八重洲口にて「観光文化資料館」(1999年に旅の図書館に改称)として開設してから40周年という節目の年を迎えます。現在、40周年を記念した各種事業を企画中です。当館の運営に引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

第12回「たびとしょCafe」を開催しました(2/8)

テーマ 「ツーリズム・リテラシーという考え方
～産官学の連携と新たな観光文化の創出へ～」
ゲストスピーカー 山口誠氏(獨協大学外国語学部交流文化学教授)

山口氏は、旅は誰もが自然にできるようになるものではなく、歩くこと、話すことと同様に何年もかけて意識的に学ぶものであると言います。観光や旅を当たり前のものとして認識するのではなく、多角的かつ批判的に捉えることで、よりよい観光文化を探索するためのルートがあるのではないかという仮説のもと、今回はその試論についてお話いただきました。

当日は26名の方にご参加いただき、大学教員、観光関連団体、交通事業者など多様な立場の方から多くの質問が寄せられました。

※詳細は「観光文化」237号で紹介しています。



MINATO シティプロモーションクルー 認定事業 認定団体交流会に 参加しました

2017年度MINATOシティプロモーションクルー認定事業(港区)の一環で、館内の一角に港区専用の観光パンフレットラックを設置し、観光情報を発信しています。

2/23~3/7までは、港区役所の1階で認定事業の紹介展示がおこなわれました。あわせて初日には認定団体が一堂に会する交流会が開催され、取り組み内容の紹介や意見交換などがおこなわれました。各団体の創意工夫に満ちた取り組みと地域に対する熱い想いは我々にとって非常に刺激になりました。



古書研究&アーカイブプロジェクト進行中!

当館では戦前の旅行・観光に関する古書・貴重書を約2300冊所蔵しています。2017年度から、これらの所蔵古書の精査を行い、書誌データの修正や保存方法の検討、古書の概要整理、デジタルアーカイブ化などを進めています。

所蔵古書の概要については当館1Fの古書展示ギャラリーでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

デジタル化作業期間中、一部古書が閲覧いただけなくなるためご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

※閲覧ができない古書は、随時HPでご案内します。
※ご寄贈いただける古書がありましたら
tabitosh_info@jtb.or.jpまでご連絡ください。



旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



1 観光先進国をめざして 日本のツーリズム産業の果たすべき役割

田川博己 著 中央経済社 2018年2月 四六判 290頁

日本の観光産業のトップが説く2030年を見据えたツーリズム像。グローバル化した現代におけるツーリズムとわが国における旅行産業の果たす役割をあらためて考えた。

2 西村幸夫 文化・観光論ノート 歴史まちづくり・景観整備

西村幸夫 著 鹿島出版会 2018年2月 A5判 232頁

歴史と文化をいかに景観へと活かし、まちの自慢をつくるか。制度改革に尽力してきた第一人者である著者(当財団評議員・専門委員)が語る観光まちづくりの思想と提言のアンソロジー。

3 オリピックと万博 ー巨大イベントのデザイン史

暮沢剛巳 著 筑摩書房 2018年2月 新書版 272頁

五輪と万博という巨大国家プロジェクトのデザインと、そこに貢献した丹下健三、亀倉雄策らの群像を追う。デザイン史をたどりながら、今日の巨大イベントのあり方を問いつける一冊。

4 マーケティングの教科書 ーハーバード・ビジネス・レビュー 戦略マーケティング論文ベスト10

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 編 ダイアモンド社 2017年12月 四六判 288頁

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部が厳選する斯界の権威の名著論文から学ぶ二つのビジネスの基本ーマーケティングとイノベーション。すべてのビジネスパーソン必読。

5 トレイルズ 「道」と歩くことの哲学

ロバート・ムーア 著 岩崎晋也 訳 エイアンドエフ 2018年1月 四六判 376頁

「自分の足元に伸びる道は、どこへ続くのか。」道とは何かという旅を通じて、人間とは何か、ということまで考えさせられる本。2017年全米アウトドアブック賞受賞。

6 震災後の地域文化と 被災者の民俗誌 ーフィールド災害人文学の構築

高倉浩樹・山口睦 編 新泉社 2018年1月 A5判 288頁

単なる震災復興の記録ではない。民俗学・人類学・宗教学の立場から被災後の人々と地域社会の変化を見つめ、災害からの再生と滅亡に果たす生活文化の役割を考える。

7 日本の観光を担う次世代リーダーへ つかめ!新時代のビジネスチャンス

首都大学東京・日本観光振興協会 編 日本観光振興協会 2018年2月 A5判 301頁

首都大学東京・日本観光振興協会共催「観光経営トップセミナー」の講義エッセンスが凝縮した一冊。「今の観光」を知り、観光マーケティングや経営理論を学ぶことができる。観光ビジネス関係者必読!

8 旅する街づくり 若き都市計画家の欧米都市見聞録

伊藤滋 著 万来社 2018年1月 A5判 443頁

タイトルから惹かれる。都市計画の第一人者が若き時代に単身飛び込み肌身に感じた都市計画の実態と思想の記録。これからの都市計画に携わる実務者、研究者にぜひ一読してほしい一冊。

9 図説 日本と世界の土木遺産

五十畑弘 著 秀和システム 2017年10月 A5判 442頁

日本と世界の代表的な土木遺産260箇所の特徴や意義、見所などその魅力を凝縮した一冊。本書を片手に土木技術の神髄にふれる旅が楽しくなる。

10 観光MICE ー集いツーリズム入門

田部井正次郎 著 古今書院 2017年12月 A5判 250頁

国際会議や国内会議、展示会やイベントの誘致と開催に携わった経験をもとにMICEビジネスの全体像を具体的に語る。MICEにかかわる官民の実務家と観光業を目指す学生のための教科書。